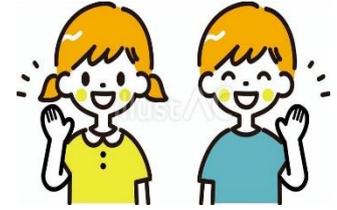




相談室だより



2023年 11月

「何をするにもまず挨拶から」「挨拶に始まって挨拶に終わる」といった言葉は聞いたことがありますか？これらの言葉からもわかるように、どこに行っても挨拶をすることは求められます。一日の挨拶の言葉の由来をいくつかみてみましょう。

「おはようございます」は、当然朝の挨拶ですが、由来は歌舞伎とされています。歌舞伎役者の準備には時間がかかるため、公演が始まるずっと前から到着して準備をしていました。それに対し、裏方や下っ端の方がねぎらいの意味を込めて使った「お早いお着きでございます」という言葉が変化して今の形になりました。

「こんにちは」のもともとは、「今日は、ご機嫌いかがですか」「今日は、いいお天気ですね」といった言葉が挨拶として使われていました。しかし、明治時代の教科書に「今日は」以降が省略され、「こんにちは」と書かれていたことで広まったとされています。「こんばんは」も「こんにちは」と同じように、元々続く言葉が省略され、「こんばんは」という形になりました。

別れるときの挨拶「さようなら」の語源は、「然様(さよう)ならば失礼・御免」や「左様(さよう)ならば、また明日」などの「さようならば」の「ば」と「失礼・御免」などの後に続く語が略され、挨拶になった語です。現在で別れ際に言う「それじゃあ」のようなもので「それならば」を意味します。なんでも、江戸時代までは「さようなら、ごきげんよう」と言っていたものが、明治以降、男性が「さようなら」、女性が「ごきげんよう」と言いわけるようになり、ついに昭和には、女性のほとんども「ごきげんよう」は言わないで、「さようなら」を言って別れるようになってしまったとか。

就寝前の「おやすみなさい」は、宿屋の主人が客に対して使っていた「ゆっくりとお休みになってください」という言葉に由来しているとされています。

現代、Z世代が使っている「エモい」なども、挨拶の言葉とそんなに変わりがなく、省略するのが好きな日本人の民族性を感じます。

ただ、挨拶の言葉は、相手に対するねぎらいや気配りの部分を省略したのに対し、Z世代の造語は、SNS への投稿のため単に短くしたり、「〇〇は〇〇でしかない」といった感覚的なものが多く、“自己本位な省略なのかなあ、理解できないなあ”と時代の違い、世代の違いを感じています。

2年学年主任 重松 寛紀

教育相談室では、学校生活での悩み、家庭での悩み、生活行動上の悩み、生活の中での不安など、解決の手助けができたらと思っています。誰かに話を聞いてもらえるだけで、心が軽くなります。どんなささいなことでも気軽に相談に来て下さい。

スクールライフアドバイザーの来校日 原則火曜日 (12:00 から 16:00)

相談室は、本館1階進路指導室隣